



# もり 森林の風

特定非営利活動法人  
森林の風  
会長 蒲田 博  
2009年12月発行

第2号

## だより

NPO法人森林の風  
会長就任のご挨拶

蒲田 博

この度、奥田会長の後任として急遽、会長職を引き継ぐことになりました。

森林施業の知識、経験は十分とはいえない私ですが、会の運営には出来る限りの努力をしたいと思っておりますので、会員の皆さん、森林の風に関わってくださる多くの方々にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

私の森林施業とのかかわりは、04年の（森林ボランティア）への入会が始まりでした。その後三重県主催の森林ボランティアリーダー研修会、鈴鹿森林組合の間伐研修会、長野県・KOA 森林塾集中講座などに参加し技術のレベルアップをはかってきました。とりわけ、奥田前会長には（森林ボランティア）時代からチェーンソーによる伐倒技術の手ほどきをしていただき、その他の請負では地拵え、植樹、下刈り、枝打ち、間伐などの指導を仰ぎながら施業をご一緒させていただきました。

また、05年の「森林の風」設立と同時に会員となって以来、会主催の研修会にも、ほぼ毎回参加しています。

現在、会の活動地は亀山市加太向井、亀山市坂下兵治尾、菟野町田光、亀山市矢の峰、津市白山町、鈴鹿市小岐須などにありますが、各地の活動ごとに分担をきめ、全員の協力のもとスムーズな会の運営をはかっていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

### — 目 次 —

お知らせ	臨時総会報告	奥田会長を偲んで	2	
会員の広場	日々探求	「間伐力」を知る	3	
	報 告	土ポットで実生させる理由（わけ）	4, 5	
[ side1 植物図鑑 / side2 研究→実践 side3 面白かった1冊 ]				
事務局だより	最近の活動	森林の風メンバー紹介	編集後記	6

森林施業 NPO法人  もり  
森林の風

連絡先 / 〒512-0933 三重県四日市市三滝台4丁目15-7 TEL059-321-7719 携帯電話090-9663-4088  
<http://www.morinokaze.info> \*詳しくは、ホームページまたは上記まで問合せください。

## お知らせ

[ 12月13日(日)臨時総会開催 ]

奥田会長の急逝にともない、新会長の選任を主議題として臨時総会を開きました。表紙の挨拶にもありますが蒲田 博を全会一致で新会長に選任しました。

また、平成 22 年春の定期総会に向けて理事を現行の 3 名から 4 ないし 5 名に増員する案も了承されました。今後は新会長のもと引き続き「水源の森づくり」を目指し活動していく所存でございます。更なるご指導とご支援をうけ賜りますようよろしくお願いいたします。

奥田会長を偲んで

岡島 俊雄

私と奥田会長の出会いは 7 年ほど前で、三重県いなべ市北勢町の「白瀧棚田保存会」のオーナーとして荒廃した放棄棚田を再生復元する為に汗を流した仲間でした。

その頃から、日本の森林の荒廃(特に人工林の荒廃)した現状を憂い、環境保全の観点からも森林保全の為に少しでも役立ちたいとの思いで各種研修会に参加したり森林ボランティアグループに所属したりしている、との話を昼食時など雑談の中で聞いていました。

3 年ほど過ぎた或る日「森林施業 NPO 法人」の設立に参加しないか? とのお誘いを受けました。お話を伺いますと、

月に1~2度の活動で「参加することに意義がある」程度のボランティアは、自身の思いである森林保全に「少しでも役に立ちたい」の「す」の字にも及ばない。そのもどかしさに耐えられず同志を募りもって積極的に活発な活動の出来るグループを作って勉強と研鑽を重ねていく。そして行政、企業、森林組合、個人山主等に認めていただけるようなセミプロ集団となって社会に貢献していきたい。その為には、グループの立ち位置を明確にする必要があり、当初から法人格を取得することを考えて個人的な繋がりから鈴鹿森林組合の支援も取り付けてある・・・。

という内容でした。その主旨に賛同して参加させていただく事になりました。

以来、林業に関しては全くの素人である私を研修の場で厳しくご指導頂きました。まだまだ半人前ではありますが、グループ内で他のメンバーに迷惑を掛けないようになれたのは奥田会長をはじめ滝口さん、井伊さん、大河内さんのお陰だと思っています。

特に思い出に残っているのは、1 年程の間、活動地へ向かう会長と相乗りの車の中で、林業に関する事は勿論、世間の情勢から、幼い日の出来事まで語りあったことであり、忘れられません。

設立をはじめ基礎固めに指導力を発揮され、グループが順調な滑り出しを見せて県内で少し認められはじめた頃、奥田会長は病に倒られました。グループ一同が 1 日も早い復帰を願う中 1 年半に及ぶ闘病の末、去る 11 月 13 日未明に帰らぬ人となりました。

熱い思いで植えた「森林の風」という苗木の成長を見ることなく逝かれたことは、無念の一語に尽きると思います。残されたメンバー一同で会長の思いを受け継ぎ、「森林の風」が未来永劫に成長し続けるように頑張ることを誓うと共に心からご冥福をお祈りします。

## 会員の広場

### 日々探求 Study 「間伐力」を知る

【井伊】

「間伐力」という言葉を考えてみました。要は一日で何本伐倒できるかということです。「伐倒力」でもいいのですが、切り捨て間伐には等高線に沿って伏せ混む作業も含まれているので、やはり「間伐力」というほうが適切だろうということです。

前から自分の実力はどのくらいのものか気になっていました。

いろいろ条件があるので 一律に測定するのは難しいのですが、今回ちょうどいい機会があったので、考え方として、比較的良好条件の場合で自分の最大値はどのくらいかを把握することにしました。

#### 現場条件

場所・・・丹沢 秦野峠付近 標高 900m前後

状況・・・目測で胸高直径平均 18 センチくらい (10~30 センチ) 樹高 10m程度  
のヒノキ林。多分 3000 本/ha 弱の密度。

全体として直登は出来ない程度の傾斜だが横への移動はスムーズ。但し火山性の土で足元は崩れやすい。使用チェーンソーは新ダイワ ウッドペッカー1038S (森林の風で使用しているスチール MS200 よりちょっと重い)

作業時間 朝 9 時~4 時 15 分まで

(休憩：10 時と 3 時に 10 分、昼休み：1 時間)

選木は既に終わっているので、作業内容は 伐倒、枝払い、玉切り、等高線状に 2 本の立木、伐根に寄せるといった内容。朝からそれぞれ持ち場に分かれて 4 時過ぎまで一人作業です。相手を遠くに見るだけで基本的に顔を合わせることはありません。マイペースで黙々と作業を進める感じで昼食も独りです。

#### 結 果

	午前	午後	感想
1 日目	41 本	34 本	4 か月ぶりの作業でバテバテ状態
2 日目	40 本	39 本	チェーン外れで時間を喰う。最後ガス欠
3 日目	46 本	39 本	だいぶ感覚が戻って、終了後の疲れ方が違うのを感じる。 (やはりチェーンが外れ時間を喰う)

以上 3 日間のデータですが 連続ではなく 2,3 日あけて入山しています。朝から夕方までの連続作業で疲れは相当なものです。午後 3 時以降はガクッとスピードが落ち作業終了後は背中や腰が張って、林道の車まで下山するときには荷物の重さが辛かったです。それで傾斜のある林分での間伐条件としてはかなり良いと思われるので、現在の私の間伐力は 80~85 本くらいと見ています。

ですから樹高がさらに高かったり、直径がもっと太くなったり、あるいは傾斜がきつかったりすると、当然著しく本数は減ることになります。特に樹高は、枝払い、玉切り

#### SIDE1. 植物図鑑

この2種はまなびの森の西側でよく見られます。

#### エノキ

落葉高木：20 メートルを越すことも

葉：広卵形・互生

花：4~5 月・実は秋に熟し、野鳥のエサになる

特徴：昔から街道の一里塚や境界目印として植えられた。

材は堅いが軽いため農機具の柄に使われ、柄の木=エノキとなったそう



#### チャノキ

常緑低木：7~8 メートルになることも

葉：長楕円形・互生

花：秋に白い花を下向きに咲かせる

特徴：いうまでもなく中国から榮西が緑茶用に持ち帰り栽培されている。実生で野生化しているものも見られ、暗い林の中でも育つ。



## SIDE2. 研究→実践



保育ブロック作成機

山寺先生の研究や「保育ブロック工法」についての詳細は、インターネット上で「保育ブロック工法」と検索すると出てきます。アドレスは・・・

<<<http://kadomatsu.s-hinshu-u.ac.jp/~chisan/20/>>>

山寺先生の保育ブロック、森林の風では「土ポット」の愛称でお馴染みです。



育苗中の保育ブロック

我が土ポットもこんな風に芽生えて育ちますように。

土ポットを学んだのち、桑名で竹林を整備した際に出た竹をポットにしてみました。こちらも今後注目です！



の時間が必ず増えるので大きく影響します。

なぜ自分の間伐力を最大値で把握するか？

例えば、現地を見て、だいたい樹高が20mで傾斜はかなり急な林分、ということになれば、これまでの自分の現場経験に照らして半分の40~45本/日で見積もるとか、さらに太くて掛り木が気になればその8掛けにするとか、おおよその見積もりが可能になると思います。

いかがでしょうか。

皆さんも機会を見つけて測ってみてはどうでしょう。但し、無理はしないで下さいね。この間伐力を提案したために、お互いを比較したり競争して優劣を競ったりするのは本意ではありません。あくまで自分を知るため、自分の工夫の糧にするためのものと考えています。(実際、どうしたらUPするかをいろいろ考えるようになります。)

他人を意識し、競争してけがをするのはバカバカしいことです。くれぐれも自分のペースはしっかり守って下さい。

## 報告 Report 土ポットで実生させる理由(わけ)

【水野】

2009年春、森林の風会員数名で元信州大学教授山寺喜成先生を訪ね、「保育ブロック工法」について伺って来ました。

[健やかな森をめざして]

大雨や台風による土砂災害は、人工植林が行われた場所で多くの場合起きている。人工植林は、天然林に比べ土壌保全力や水源涵養能力(いわゆる保水能力)が明らかに低い。これは、根の発達が不良で浅いことが原因と考えられる。

植栽した木と天然性の木とは、根の形態に大きな違いがある。天然木の根は、数は少ないが太く、長く、広範囲に伸びる。特に、「直根」(垂下根)が地中深く伸長する。また、側根(横に伸びる根)も太く長く発達し、隣の木の根と相互に交わる「ネット構造」を形成する。

これに対し、植栽木の根では、細い、短い、数が多いが直根が消失するなど、天然木との明らかな違いが認められる。特に、植栽木では直根の地中深くへの伸長は見られない。また、側根が細く密生し短いので、ネット構造はほとんど形成されない。

つまり、土砂災害に強い森林を作るには、根っこが深く発達した倒れにくい木が良いということになる。そこで、**良い根っこを持った植林用の育苗**が必要となってくる。



天然木(実生苗)



播種木と植栽木の根の違い(ウバメガシ:施工7年後の根系形態)



	播種木(いわゆる天然木)	植栽木(いわゆるポット苗)
根系形状	太い、長い、数少ない、直根発達、生存範囲広い	細い、短い、数多い、直根消失、生存範囲狭い
環境保全力	①耐候性 大、②土壌保全 大、③保水性 大、④生産性 大、⑤寿命 長、⑥環境改善力 大	①耐候性 小、②土壌保全 小、③保水性 小、④生産性 小、⑤寿命 短、⑥環境改善力 小

そこで、天然木の根系形態に近づける手法の一つとして、直根の発達を促す「保育ブロック」が考え出された。

根系の生育モデル図



「保育ブロック」

樹木の根系を天然林のように地中深く広範囲に伸長させるために、貫通穴を設けた土壌ブロック。この保育ブロックをそのまま山の斜面に植えることを「保育ブロック工法」という。特徴として以下が挙げられる。

①直根の伸長が促進され、ルーピングせず、地中深く真直ぐ伸びる。このことにより、乾燥に強い森林、防災機能が高い森林、水源涵養能力が大きい森林が形成される。

②太い「直根(杭根)」が旺盛に伸長することにより、風倒や崩れに対して強い樹林が形成される。また、樹木相互間に太い側根が交わる「ネット構造」が発達し、滑落し難い樹林が形成される。

林が形成される。

③根系が阻害されることなく広範囲に張るので、高い生育量が持続され、また、寿命の長い森林が形成される。

④傾斜に対応した根系形態が形成され、また、地上部と地下部のバランスを保ちながら生長することから、樹齢や樹高が高くなっても、急斜面においても、崩れに対して抵抗性のある樹林が形成される。

山寺先生にご教授頂いた上記のようなことをふまえ、森林の風としてはこの工法を学び進めて行きます。

SIDE3. 面白かった一冊

【裏川】

“神去なあな日常”

三浦しをん著



横浜の高校を卒業した若者が母親と担任教師の策略で突然、林業の世界へ放り込まれます。場所は三重県の山奥で奈良県との県境に近い“神去村”(カムサリムラ、架空の村ですが美杉あたり?)です。林業の実践教育を受けながら壮絶な仕事や神事を通じて一人前の山男に成長していく様子が独白調につづられています。村のひとたちに少しずつ認められながら人間味あふれる交流の中でささやかな恋も芽生えます。

菟野町図書館では、貸し出し予約で2ヶ月待ち!の人気です。

末筆には三重県環境森林部や各森林組合への謝辞があり、取材を受けた方々にはその感想などもぜひ伺ってみたいものです。

## 事務局だより

### —みえぎんまなびの森オープニングイベント—

2009年10月25日(日) みえぎんまなびの森にて  
みえぎん森倶楽部 30名 森林の風:17名  
「森開き! 2009秋」の最終準備と本番(午後)

- ① 栽用竹ポットや土ポットづくりの指導
- ② ハートコールづくり
- ③ 薪割り体験 ④ 丸太切り体験 ⑤ 測量体験



お客さんも含めて総勢 150 人ほどが集まりオープニングイベントは大成功のうちに終わりました。

### —第8回 本田技研工業(株)鈴鹿製作所

#### 森林保全活動—

2009年11月14日(土) 亀山市関町向井F1  
本田技研 20名 森林の風 12名 鈴鹿森林組合 3名



雨天での集合となり  
「亀山市加太・林業センター」で座学からスタート。  
森のことを理解するため  
「水源の森プログラム」の

説明と過去7回の活動で森の変化を映像で確認。早めに昼食を済ませ、青空が見え始めた午後から鈴鹿森林組合若手林業家3名と森林の風メンバーが指導して、7種類70本の広葉樹植樹・鹿対策をしました。

#### 森林の風にかかわるひとびと



新メンバーの堀田さんなしにこの屋根はできあがりませんでした! 鉄工・木工の分野でたいへん頼りになる存在です。



滝川さんは会員ではありませんが植樹用の苗木や種子のことでいろいろとお世話になっています。それ以外にも教えてもらえることはたくさんありそう!

※ 森林の風 基本の定期活動・・・

第1・第3土曜日 → 矢の峰 / 第1・第3日曜日 → 向井F1 / 第2・第4日曜日 → みえぎん まなびの森

## 編集後記にかえて

### 「芽吹きの出発」

瀧口邦夫

10年ほど前から故奥田会長と蒔いた種が、やっと芽生えの時を迎えているというのに残念です。出会った当時、「“森林再生”に熱い思いを持ち、共に汗を流す」が活動のスタートでした。これが原点です。ともに汗を流すことで達成感を楽しみに変え、会話が生まれ、目的が明確になると考えNPO 設立へと向かいました。棚田の復元作業への参加を呼び掛けたのもこの頃です。

“森林の風”のような活動グループが少なかったことや自然環境保全に向けた世の流れもありましたが、活動が予想を超えて大きく広がったことは、会員の運営協力及び多くの方々のご参加によるものと、感謝の一言につきます。特に鈴

鹿森林組合をはじめ本田技研工業(株)、三重銀行など多様な企業にご賛同、協働いただき、また、多くの個人林業家にご支援いただいていることは大きな力になっています。

森林整備活動(林業請負)、小中学校への協力、まちなきこり人育成講座、水源の森プログラム、各種イベント参加、まなびの森、向井F1の森林研究林・・・と活動内容は多彩を極めます。

森林の風ではこれからも、会員各自が常に知識向上を目指し、会員各自がそれぞれの得意分野で力を発揮することによって、「水源の森を守る」活動を続けて行きたいと思えます。爽やかな風になって森林を守りましょう。